

## 古街道通信

発行 者：古街道PJ事務局

発行 日：令和5年9月吉日

発行責任者：岩崎 正幸



## いざ！麻生津ルート

9月2日（土）。ようやく地権者の同意を得られたので、麻生津ルートの造成個所を確認しました。



岩崎会長より・・・

「さあ！いよいよ今日から、今年度の最大の事業である麻生津ルート造成のためのルートの確定の確認を行います。」



麻生津ルート入口の予定個所から、一斉に山中に入っていきます。

この辺りは、平坦で「何のことはない！」と思いましたが・・・甘かった！



岩崎会長と竹内実行委員が、沢から尾根に登る急登のルートについて、階段の設置個所を確認しています。



沢から尾根に向かいますが、ここが結構難所でした。

実際の階段の設置は左の方に迂回します。

しばらく行くと、竹林です。行く手を拒む倒れている竹を手で除きながら前に進みます。



決定したルートが作業時にわかるように、目印の布を付けていきます。

尾根伝いを登って行くと、またしても竹林です。ここも倒れている竹を取り除きながら、階段を設置します。



竹林の端まで行くと、人工的に削られたような岩を発見しました。

でも、よく聞くと「自然の岩」だそうです。

残念・・・



ようやく、杉谷ルートの「二重切り堀」の合流地点に到達です。お疲れさまでした。



# 社清明南

浅水郵便局の前にある「あさむつ橋」について、今回は名前の由来ですが、これには「新田義貞」が大きく関わっているということです。

前回に引続き今回は、浅水郵便局の前にある「あさむつ橋」名前の由来にまつわる言い伝えについてお話します。

時は、今から遡ること約700年前の鎌倉時代から南北朝時代にかけてのことです。

新田義貞（1301～1338）は、この越前（福井県）で激しい戦を行っていたのですが、近江国（滋賀県）で待っていた義貞の妻（匂当内侍（こうとうないし））に、越前に来るよう知らせたのでした。しかし、当の義貞は妻が着く前に灯明寺の戦いで戦死してしまいました。

そうとは知らず、越前に向かっていた匂当内侍は、城山の麓にあった麻生津橋において、国府（越前市）に引上げる途

中の義貞の弟（脇屋義助）に出会いました。

そこで、脇屋義助から夫の義貞の戦死の報を聞いて、匂当内侍は悲しみの余り気絶してしまいました。

その後、脇屋義助を始め家来の者からの介抱を受けて、明け六つ時（午前5時から午前6時）にようやく気が付いたことから、その後、この麻生津橋に「朝六ツ（あさむつ）」という名前が付けられたということです。

このように、新田義貞にまつわる話がこの城山の麓の麻生津地区に残っているということは、その当時、新田義貞や脇屋義介が城山で砦を築いたであろうことは容易に想像できます。

城山にまつわる壮大な歴史浪漫が今後ますます大きくなっていくことを信じてしたいと思います。（田嶋 則次）



「あさむつ橋」の  
たもとに建つ石碑



〔匂当内侍〕

## 1 2 これからの活動予定

これからの古街道整備計画、役員会等の活動及び開催予定についてお知らせします。

### 整備計画

- 10月8日（日）  
麻生津ルート of 整備

### 役員会等

- 10月5日（木）19：00（清明公民館）



## 編集後記

9月も下旬に入り、季節もそろそろ秋の気配が漂って来てもよさそうですが、この通信を作成している時期でも、まだ気温が30度を超えている状況です。

我が家では、例年どおり9月初めに大根の種を蒔いて、白菜とかキャベツの苗を定植したのですが、生育状況がいつもと違うようです。

"暑さ寒さも彼岸まで"とは言いますが、どうも地球の環境がおかしくなっているみたいです。どう思いますか？ (thousand fall)



(バックナンバー)